

## (資料29) 平成15年度地方環境研究所等との共同研究

内訳: 29機関 56課題(新規 30、継続 26)

(平成15年 3月 31日現在)

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		新規 継続
				A・B・C	・	
北海道環境科学 研究センター	大塚英幸 (環境保全部)	ダイオキシン類の分析法に関する研究	森田昌敏・伊藤裕康 (化学)	A		新規
	野口泉 (環境保全部)	日本北方における対流圏オゾン及びその前駆物質の動態に関する研究	谷本浩志(大気)	B		新規
	高田雅之 (企画総務部)	流域生態系の再生プラン支援を目的とした河川ネットワーク解析技術の開発	福島路生(多様性P)	B		新規
北海道立衛生 研究所	藤本 啓 (食品薬品部)	ダイオキシン類の分析方法に関する研究	森田昌敏・伊藤裕康 (化学)	A		新規
青森県環境保 健センター	三上一 (公害部)	十和田湖における難分解性溶存有機物の発生原因の解明に関する研究	今井章雄(水土壤)	B		新規
岩手県環境保 健研究センター	高橋悟 (環境科学部)	バイオアッセイを用いた水環境試料中の環境ホルモンのモニタリングとそのリスク評価	白石不二雄・白石寛明 (ホルモンP)	B		継続
山形県環境科 学研究センター	伊藤 聡 (環境企画部)	流域生態系の再生プラン支援を目的とした河川ネットワーク解析技術の開発	福島路生(多様性P)	B		新規
宮城県保健環 境センター	鈴木 滋 (環境化学部)	環境汚染化学物質であるダイオキシン類の分析法に関する研究	森田昌敏・伊藤裕康 (化学) 橋本俊次 (ホルモンP)	B		継続
	三沢松子 (水環境部)	バイオアッセイを用いた水圏中の環境ホルモン作用のモニタリング手法評価に関する研究	白石不二雄・白石寛明 (ホルモンP)	B		新規
茨城県公害技 術センター	高木敏夫(企画)	茨城県におけるSPM高濃度原因の解明と対策調査	若松伸司(PM2.5)	B		新規
	小林紘(大気)	霞ヶ浦における水質浄化に関する研究	今井章雄(水土壤)	B		新規
	根岸正美(水質環 境部)					
栃木県保健環 境センター	荷見昭夫 (化学部)	環境中におけるダイオキシン類の分析法に関する研究	伊藤裕康(化学)	A		継続
埼玉県環境科 学国際センター	松本利恵 (大気環境)	三宅島の火山ガス等による強酸性雨の観測	村野健太郎(大気)	B		新規
	長森正尚(廃棄物 管理グループ)	埋立地ガスならびに土壤保有水を用いた最終処分場安定化診断技術の開発	石垣智基(循環C)	B		継続
	渡辺洋一(廃棄物 管理グループ)	循環資源の地域流通円滑化のための中継基地システムの開発	山田正人(循環C)	B		継続
	小野雄策(廃棄物 管理グループ)	循環型社会における最終処分場の機能分化	山田正人(循環C)	B		新規
	小野雄策(廃棄物 管理グループ)	通気及び浸出水循環による既存最終処分場の安定化促進技術の開発	フレント イナチ(循環C)	B		新規
	長谷隆仁(廃棄物 管理グループ)	最終処分場における魚類を用いた浸出水モニタリング系の開発	毛利紫乃・山田正人 (循環C)	B		継続
	八戸昭一(地質地 盤グループ)	最終処分場における環境汚染ポテンシャル評価のための地理情報システムの開発	遠藤和人(循環C)	B		継続
	木持謙(廃棄物管 理グループ)	生活系排水対策法としての浄化槽由来のN2O放出量・放出係数の推定と高度合併化に伴う削減効果等の解析評価	稲森悠平(循環C)	B		継続
千葉県環境研 究センター	香村 一夫(廃棄物・ 化学物質部)	既存処分場における水分分布測定手法の開発及びその応用に関する研究	井上雄三(循環C)	B		新規
	堤 克裕(廃棄物・ 化学物質部)	最終処分場の容量増加・再生技術の評価に関する研究	フレント イナチ(循環C)	B		新規
	原 雄(廃棄物・ 化学物質部)	最終処分場の維持管理に必要な水質分析項目の見直し	山田正人(循環C)	B		新規
	山崎 康廣(廃棄物・ 化学物質部)	水生生物を用いた最終処分場浸出水の管理手法の開発	毛利紫乃・山田正人 (循環C)	B		新規
東京都環境科 学研究所	星 純也 (分析研究部)	有害大気汚染物質自動分析計の精度管理に関する研究	田辺潔(化学) 若松伸司(PM2.5)	B		継続
	森 真朗 (基盤研究部)	内分泌かく乱化学物質の魚類へのリスク評価に関する研究	菅谷芳雄(リスクC)	B		継続
	及川 智 (応用研究部)	埋立地ガスの環境影響評価に関する研究	山田正人(循環C)	B		新規
横浜市環境科 学研究所	水尾寛己 (基礎研究部門)	統計的手法を用いた人工衛星データによる水質推定の検討	田村正行(社会)	B		新規
川崎市公害研 究所	浦木陽子 (大気研究担当)	LC/MS等による大気中有害化学物質の分析手法に関する研究	鈴木茂(循環C)	B		新規
静岡県環境衛 生科学研究所	深澤 均 (環境科学部)	環境リスクが懸念される有害化学物質の検索に関する研究	白石寛明(リスクC) 白石不二雄(ホルモン)	B		新規
富山県環境科 学センター	鳥山成一 (大気課)	ガス状ほう素化合物による大気汚染監視測定技術の開発	西川雅高・田中敦(化 学)	B		継続
福井県衛生環 境研究センター	加藤賢二 塚崎嘉彦 (環境保全部)	水循環の健全化のための底質改善・底質除去資源循環技術の開発	稲森悠平(循環C)	B		新規

地環研機関名		課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		新規 継続
				A・B・C	.	
長野県衛生公 害研究所	小澤秀明 (管理部)	環境試料中のダイオキシン類の分析法に関する研究	森田昌敏(統括) 伊藤裕康(化学) 橋本俊次(ホルモンP)	B		継続
	笹井春雄 (大気部)	廃棄物埋立処分起因する有害物質による環境影響評価に関する研究	白石寛明(リスクC) 白石不二雄(ホルモンP)	B		継続
	原田 勉 (大気部)	山岳地域におけるハロゲン化メチルの動態に関する研究	横内陽子(化学)	B		継続
	樋口澄男 (水質部)	車軸藻の絶滅・絶滅危惧種の保護と自然界への復元に関する研究--車軸藻類を中心にした湖沼水草帯の復元手法と水質浄化機能の検討--	渡辺信(生物)	B		継続
	鹿角孝男 (大気部)	山岳(八方尾根)降雪中の鉛同位体比測定によるアジア大陸からの越境大気汚染の定量化	村野健太郎(大気) 向井人史(地球C)	B		新規
長野県自然保 護研究所	北野 聡	野生生物の遺伝的多様性をモニタリングするための手法の開発に関する研究	高村健二(多様性P)	B		継続
名古屋市環境 科学研究所	朝日教智 神原 靖 (水質部)	微生物分解を用いた汚染除去に関する研究	岩崎一弘 (多様性P)	B		継続
	山神真紀子 (大気騒音部)	自動車起源のPM2.5に関する研究	若松伸司(PM2.5)	B		新規
岐阜県保健環 境研究所	村瀬秀也 (環境科学部)	環境試料中のダイオキシン類の分析法に関する研究	森田昌敏(統括) 伊藤裕康(化学) 橋本俊次(ホルモンP)	B		継続
滋賀県琵琶湖 研究所	浜端悦治 (研究企画部門)	フライウェイ中継湿地における水鳥相と水生植物相の関係検索	矢部 徹(生物)	B		新規
京都府保健環 境研究所	日置 正 中西貞博 (大気課)	日本海側におけるエアロゾル中の微量金属及び鉛同位体比の動態に関する研究	村野健太郎(大気) 向井人史(地球C)	B		継続
	中嶋智子 (環境衛生課)	廃棄物処分に起因する外因性内分泌攪乱化学物質による環境影響評価に関する研究	白石不二雄(ホルモンP)	B		継続
	日置 正 中西貞博 (大気課)	粒子状物質の粒径別高時間分解能成分分析手法の開発と都市大気エアロゾルの動態解明への応用に関する研究	若松伸司(PM2.5)	B		新規
	多田哲子 (水質課)	クサガメを指標動物とした外因性エストロゲンの生態影響に関する研究	白石寛明(リスクC) 白石不二雄(ホルモンP)	B		新規
大阪府立食とみ どりの総合技術 センター	大谷新太郎 (食品・資源部)	野生アカネズミにおける残留性有機汚染物質の毒性作用の検討	遠山千春(健康)	B		新規
兵庫県立健康 環境科学研 究センター	吉村陽 池澤正 (第一研究部)	道路沿道の局地NOx高濃度汚染とその対策に関する研究	若松伸司・上原清 (PM2.5)	B		継続
	駒井幸雄 梅本論 (水質環境部)	山林域における水質形成と汚濁負荷流出過程に関する研究	今井章雄(水士壌)	B		継続
	梅本論 駒井幸雄 (水質環境部)	ため池とその周辺を含む地域生態系での水循環に関する基礎的研究	高村典子 (生物多様性P)	B		新規
鳥取県衛生環 境研究所	田中卓実 (大気・地球環境室)	積雪中に積もった黄砂による酸性雪中和のメカニズムについての調査研究	西川雅高(化学)	B		新規
	奥田益算 南條吉之 (水環境室)	湖沼中の難分解性有機物に関する調査研究	岩崎一弘 (生物多様性P)	B		新規
島根県保健環 境科学研究所	藤原誠 (大気環境科)	西日本及び日本海側を中心とした地域における光化学オキシダント濃度等の経年変動に関する研究	若松伸司(PM2.5) 菅田誠治(大気) 宮下七重(情報C)	C		継続
福岡県保健環 境研究所	須田隆一 (環境科学部)	北部九州におけるハンノキ群落およびハマボウフウ群落の生態とその保全に関する研究	清水英幸(国際室)	B		継続
熊本市環境総 合研究所	津留靖尚 (環境研究班)	地下水汚染地域へのMNA(Monitored Natural Attenuation)の適用に関する研究	西川雅高(化学) 中杉修身(リスク)	B		継続
沖縄県衛生環 境研究所	与儀和夫(環境環 境生活部)	東アジア地域のエアロゾル。ガス状汚染物質の化学組成に関する研究	村野健太郎(大気)	B		継続

\* 研究タイプA~C

A: 地環研の研究者が自治体における国内留学制度等を利用し、国立環境研究所に於いて原則として1ヶ月以上にわたり共同で研究を実施するもの。

B: 地環研と国立環境研究所の研究者の協議により、共同研究計画を定め、それに従って各々の研究所において研究を実施するもの。

C: 全国環境研協議会、ブロック会議等からの提言をうけて、国立環境研究所と複数の地環研の研究者が参加して共同研究を実施するもの。

\* 研究タイプ

: 国立環境研究所が主体のもの

: 地方環境研究所が主体のもの